

② (つづき) 地域診断の方法

平成 28 年度～

③小・中学校からの情報収集、意見交換

地域に対する具体的な活動要望
についてお聞きしました！

④市子育て支援課、市社会福祉協議会 からの子育て支援施策の動向につ いての情報収集、意見交換を実施

市・市社協の地域支援の方向性と
子育て支援の輪の方向性が同じ
であることが確認できた！

⑤第 21 回千代田ふれあい祭りに て子育て支援に関するアンケート を実施

⑥構成メンバーの所属団体の活動 がカバーできていない対象年齢 について把握

地域の子育て支援に関する活動
や市・市社協の関係課等
関わりの薄い対象年齢は

3 歳半以降 就学後

市全体と千代田地区を統計上で比較し、千代田地区の特性を割り出す「量的調査」と各メンバーの活動の中から見えている特性を出し合う「質的調査」を踏まえ、千代田地区の課題、課題から生じている要因、地区の強みについて情報共有しました。

千代田小学校、染井野小学校、臼井南中学校の校長先生及び教頭先生より学校側から見える児童及び保護者の抱えている課題、外国人家庭の抱える問題について情報共有し、意見交換しました。

【具体的な提案】

- ①就学後の保護者が相談できる選択肢を地域にも増やしていく必要がある
- ②保護者が悩みを話し合えるような小規模のグループワークの場の設置や具体的なプログラムについて、学校側と地域が協力して検討していくことが必要。

家庭教育学級以外に、既存の地域のサロン活動等に就学後の相談機能を付加することの必要性を感じました。

【佐倉市子育て支援課】

佐倉市子ども・子育て支援事業計画における地域支援の方向性について
市からは、少子化により子育て支援サービスも増えつつあるが、計画に伴う意識調査結果では、保護者の子育てに関する相談場所の不足があると情報提供がある。

【佐倉市社会福祉協議会】

ともに歩むふくしプランⅢにおける地域支援の方向性について
市社協からは、支え合いのまちづくりを進める中で、挨拶運動への地域の方々の積極的な参加を進め、災害時の具体的な避難所運営方法について小・中学生、地域の方々に検討していく必要性について情報提供があった。

詳細はホームページ（↓第 21 回千代田ふれあい祭り報告書を <http://www.yoshimi-hikarinoko.ed.jp/concierge/questionnaire> クリック！

既存の活動、人材を活かした形で課題解決できる取組みの方向性について情報共有しました。
例「既存の拠点活動に相談機能を付す」

（各相談先）
地区社協、民生・児童委員、主任児童委員、市児童青少年課、佐倉市子育てコンシェルジュ、生活困窮者自立相談支援事業等

改めて妊娠期～18 歳までの継続的支援の必要性を感じました。